

三修
大新

大藏經

索引

第88冊

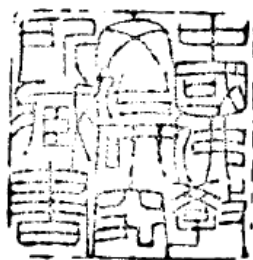
續論疏部 三

新文豐出版公司 影印

大新 正修 大藏經索引



第三十九冊
續 論 疏 部
三



新文豐出版公司 影印

大正 大藏經索引 第39冊 續論疏部三
新修

中華民國81年4月台1版

精1冊基價15.7元

編集者：大藏經學術用語研究會

發行者：高 本 釗

發行及
印刷所：新 文 豐 出 版 公 司

公 司：臺 北 市 雙 園 街 9 6 號

電 話：3 0 6 0 7 5 7 · 3 0 8 8 6 2 4

門市部：臺北市羅斯福路一段20號8樓

電 話：3 4 1 5 2 9 3 · 3 4 1 5 2 9 4

台 北 郵 政 3 6 4 3 信 箱

登記證：局版臺業字第0649號

郵政劃撥：0 1 0 0 4 4 2 6 號

ISBN 957-17-0447-4 (套)

ISBN 957-17-0455-5 (第三十九冊：精裝)

出 版 說 明

本「大正藏續編索引」第三二至四八冊係根據大正新修大藏經續編第五六至八五冊所作諸內容索引，這是日本大藏經學術研究會邀請六所佛教大學——立正、大谷、大正、龍谷、駒澤、高野山等負責編撰本索引，深獲各界好評，特此推介學林，以公諸讀者。

凡其五五冊正編部份所作三一冊索引，業於民國六十九年景印刊行，屢經讀者多方詢問：何時得以全部出齊，以利學者應用；經數年來考核評量，並得鄰國日本諒解，爲使此國際性工具書，俾以完整面目提供學者使用，特此全數景印，有了這部索引，任何問題都可以迎刃而解，可知此部索引存在價值是何等珍貴，謹此說明。

本公司編輯部 謹啟壬申年元月

簡介研讀大藏經的工具書

楊白衣

～法寶總目錄與大藏經索引之功用～

研讀大藏經是每一位佛子嚮往的終身大事，不研究則已，若想研究，則非賴特殊工具書莫辦。過去研究佛學，一、靠辭典，二、靠年表，三、靠經書目錄，但這些工具書已無法收到事半功倍之效，勢必另覓他途解決。

日本學者對此提供了最有力的工具書二種，其嘉惠學界之深，誠令吾人嘆為觀止！此二種工具書，一曰『法寶總目錄』，一曰『大藏經索引』。案此二部書之主要功用如下：

一、法寶總目錄之功用可查下列事項：

- (一)知著者而不知其著作。
- (二)知經書而不知著者、譯者。
- (三)知經書而不知有無異譯本。
- (四)知經書而不知何代、何年、何人之著譯。
- (五)知經書而不知內容章節。
- (六)知經書而不知在何處（第幾冊、幾頁）
- (七)知經書而不知有無前人之註解。
- (八)查著譯者之籍貫、俗姓、生卒年。
- (九)查經書之原名、漢譯名、日譯名。
- (十)查經書在各種版本之歸屬。

二、大藏經索引之功用有下列事項：

- (一)查法相、名數之所在以及定義等。
- (二)查人名、地名等所有固有名詞之原名，出現次數以及同名異人。
- (三)查某一術語在某一部經書中之用例、定義、異名及在各宗派中之觀點。
- (四)查五十種分類項目（詳如下表）之所在以及佛教的人生觀、宇宙觀。
- (五)查典籍之解題以及在國際上現今的研究成果。
- (六)查每冊藏經之詳細內容以及佛教之觀點。

『法寶總目錄』共三巨冊，除檢查上述各種要目之外兼有經錄的性質，不但收錄了各版本藏經，如『明藏』、『訃藏』、『訃續藏』等目錄，以及名庫所藏之書目，且有智旭大師的『閱藏知津』與陳實的『大藏一覽集』，可查每一部經律論（一七七三部）之解題、音義、傳記、疏鈔、目錄、纂集、護教、序讚、詩歌等，極為方便。

『大藏經索引』是根據日本『大正新修大藏經』（中華文化會館及新文豐出版公司影印之大藏經）前五十五冊所作之內容索引，這是日本大藏經學術研究會邀請六所佛教大學負責編撰的索引。其索引之計劃工作本以名學者小野玄妙博士（佛書解說大辭典作者）為中心，從民國三十二年開始著手，並已刊行了阿含部、目錄部、法華部各乙冊。這個計劃後來由於博士之逝世和第二次世界大戰之影響而不得不告中斷。直到民國四十五年由大谷大學，高野山大學，駒澤大學、大正大學、立正大學、龍谷大學等六所佛教大學重新提議，計劃把『大正新修大藏經』中之印度、中國、日本等三國選述之部分共計八十五冊之內容作成索引四十八冊以利學者應用。這六所佛教大學合議之結果，組成大藏經學術用語研究會，對內容的分類項目先行檢討後，決定以下列的原則展開工作。

一、以小野玄妙博士之計劃為藍本，分為分類項目別索引、音次索引、字劃索引、四角號碼索引、梵語索引、使其成為國際性之工具書。

二、用語之選擇，以漢譯大藏經為準，以總合研究之方法，每頁選出五十個學術用語，而把它配於五十種分類項目。五十種分類項目，以印度撰述部分為中心，而每項目之下再細分若干細目，其詳目如下：

1. 教 說：經典分類名目（三藏、九分教、十二分教等）……a通說 b三藏 c九分教 d十二分教
2. 教 判：有關大乘小乘，一乘三乘，密宗及各宗判教之用語……a通說 b大小乘 c一三乘 d各說
3. 教 理：表示教理之用語如三法印、空、中、緣起、佛性、如來藏等……a通說 b各說
4. 法 相：有關構成宇宙萬象的現象與本體之用語，與五位諸法有關連的名稱……a通說 b色法 c心法 d非色非心法
5. 惑 業：有關說明輪迴的惑障，業道之用語（除緣起、因果）……a通說 b惑 c業 d苦
6. 行 位：表示修行道位及得果的有關斷惑證理之用語……a通說 b凡夫位 c聲聞緣覺位 d菩薩位

- 7.戒律：有關戒律之種類、細目、持犯等之用語……a通說 b各說
- 8.禪觀：有關一般禪定、三昧、觀法之用語……a通說 b禪定 c觀法
- 9.世界：有關三界、六道等之用語……a通說（包括三界六道，二十五有）b天 c大 d地獄 e餓鬼 f畜生 g阿修羅 h其他
- 10.佛：有關佛的德性、身土、佛名、諸尊之用語……a通說 b德性 c佛身 d佛土 e佛名 f諸尊
- 11.人名：按照身分分類之固有名詞……a比丘比丘尼 b優婆塞優婆夷 c仙人 d外道 e菩薩 f其他
- 12.教派：有關學派、宗派之用語……a學派 b宗派
- 13.教團：有關僧伽、教團之法規及僧階之用語……a通說 b法規 c僧階 d其他
- 14.寺院：有關寺院之用語……a通說 b各說
- 15.信仰：有關各種信仰之用語……a通說 b各種信仰（包括稱名唱題等）
- 16.儀禮：有關佛事及僧衆等一般儀式、作法之用語……a通說 b佛事 c作法 d僧衆行儀
- 17.事相：有關密宗四度加行、灌頂行法之用語……a通說 b行法 c四度加行 d護摩 e灌頂 f其他
- 18.曼荼羅：有關密宗行法修行之本尊曼荼羅之用語……a通說 b各說
- 19.印契：有關密宗於行法時結印契（手印）之用語……a通說 b各說
- 20.陀羅尼：有關陀羅尼之用語……a通說 b真言（純密） c其他
- 21.外教：有關婆羅門教，印度諸學派、儒教、道教、神道之用語……a通說 b婆羅門 c印度諸學派 d儒教 e道教 f神道 g其他
- 22.咒術：有關幻化、咒術之用語……a通說 b幻化 c咒術
- 23.天文曆數：有關天文、時節、方位、算數、度量衡之用語……a通說 b日月星宿 c氣象 d時分 e歲月 f宿曜曆及吉凶日 g方位 h算數 i度量衡
- 24.地理：有關地理、地名之用語……a通說 b地名 c山名 d水名 e園林名
- 25.動物：有關動物之用語……a通說 b各說
- 26.植物：有關植物之用語……a通說 b各說
- 27.礦物：有關礦物之用語……a通說 b各說
- 28.物理：認為與物理，化學有關之用語……a通說 b色 c形狀 d聲音 e光熱
- 29.論理：有關因明，論理學之用語……a因明 b論理。

- 30.心理：認為與心理學有關之用語
- 31.倫理：有關倫理、道德之用語（例如恩義等）
- 32.教育：有關教育之用語。
- 33.生理衛生：有關生理與衛生之用語……a通說 b身體 c出生 d生理 e衛生
- 34.醫術藥學：有關醫術、藥學之用語……a通說 b療法 c病名 d藥
- 35.民族：有關民族、種族之用語……a民族 b種族 c其他
- 36.社會：有關家族、身分、階級等之用語……a通說 b家族 c身分 d階級 e其他
- 37.政治經濟：有關政治、法制、軍事、經濟之用語……a通說 b行政 c法律 d財政 e軍事
- 38.產業：有關一般職業之用語……a通說 b職業
- 39.風習：有關飲食、衣服、風俗之用語……a通說 b食物 c調味料 d飲料 e衣服 f裁縫 g風俗 h娛樂
- 40.言語：有關語言之種類、文字、文法、翻譯之用語以及梵語，巴利語等之音譯名詞……a通說 b種類 c文字 d文法 e翻譯 f音譯名詞 g其他
- 41.名數：以數目合成之用語
- 42.典籍：有關一般典籍之用語（包括品名）
- 43.紀年：有關年號、干支、王朝等之用語
- 44.文藝：譬喻、因緣、詩頌等與文藝有關之用語……a通說 b本生 c因緣 d譬喻 e文疏 f詩偈
- 45.音樂：有關音樂之用語……a通說 b音聲律呂 c調子 d聲譜 e典目 f樂器。
- 46.建築：有關建築之用語……a通說 b種類 c規構 d技法 e堂舍
- 47.圖像：有關佛、菩薩等的繪畫、彫刻之用語……a通說 b繪畫 c彫刻
- 48.工藝：有關美術工藝之用語……a通說 b題目 c形像 d素材 e技巧
- 49.器物：有關器具、佛具之用語……a通說 b佛具 c器具
- 50.雜語：不屬於上述四十九項目之詞彙

六家大學的分擔情形，到目前為止已出版者如下：

甲、印度撰述部

索引第一冊	阿含部	駒澤大學	大正藏第一、二冊
索引第二冊	本緣部	高野山大學	大正藏第三、四冊
索引第三冊	般若部	大正大學	大正藏第五～八冊

索引第四册	法華涅槃部	龍谷大學	大正藏第九、第一二册
索引第五册	華嚴部	龍谷大學	大正藏第九、一〇册
索引第六册	寶積部	大谷大學	大正藏第一一、一二册
索引第七册	大集部	龍谷大學	大正藏第一三册
索引第八册	經集部(上)	駒澤大學	大正藏第一四、一五册
索引第九册	經集部(下)	大谷大學	大正藏第一六、一七册
索引第一〇册	密教部(上)	高野山大學	大正藏第一八、一九册
索引第一一册	密教部(下)	大正大學	大正藏第二〇、二一册
索引第一二册	律部(上下)	駒澤大學	大正藏第二二~二四册
索引第一三册	釋經論部中觀部	駒澤大學	大正藏第二五、二六、三〇册
索引第一四册	毘曇部(上)	立正大學	大正藏第二六~二八册
索引第一五册	毘曇部(中)	龍谷大學	大正藏第二六~二八册
索引第一六册	毘曇部(下)	大谷大學	大正藏第二九册
索引第一七册	瑜伽部(上下)	立正大學	大正藏第三〇、三一册
索引第一八册	論集部	龍谷大學	大正藏第三二册

乙、中國選述部

索引第一九册	經疏部(一)	大正大學	大正藏第三三、三四册
索引第二〇册	經疏部(二)	大谷大學	大正藏第三五、三六册
索引第二一册	經疏部(三)	龍谷大學	大正藏第三七、三八册
索引第二二册	經疏部(四)	高野山大學	大正藏第三八、三九册
索引第二三册	律疏部論疏部(一)	龍谷大學	大正藏第四〇、四一册
索引第二四册	論疏部(二)	大谷大學	大正藏第四二~四四册
索引第二五册	諸宗部(一)	立正大學	大正藏第四四、四五册
索引第二六册	諸宗部(二)	大正大學	大正藏第四六、四七册
索引第二七册	諸宗部(三)	駒澤大學	大正藏第四七、四八册
索引第二八册	史傳部(上)	大谷大學	大正藏第四九、五〇册
索引第二九册	史傳部(下)	龍谷大學	大正藏第五一、五二册
索引第三〇册	事彙部外教部	高野山大學	大正藏第五三、五四册
索引第三一册	目錄部	立正大學	大正藏第五五册

丙、日本撰述部

索引第三二冊	續經疏部(一)	立正大學	大正藏第五六、五七冊
索引第三三冊	續經疏部(二上)	高野山大學	大正藏第五八、五九冊
索引第三四冊	續經疏部(二下)	高野山大學	大正藏第六〇、六一冊
索引第三五冊	續律疏部	駒澤大學	大正藏第六二冊
索引第三六冊	續論疏部(一)	大谷大學	大正藏第六三~六五冊
索引第三七冊	續論疏部(二上)	龍谷大學	大正藏第六五、六六冊
索引第三八冊	續論疏部(二下)	龍谷大學	大正藏第六六~六八冊
索引第三九冊	續論疏部(三)	龍谷大學	大正藏第六八~七〇冊
索引第四〇冊	續諸宗部(一)	立正大學	大正藏第七〇、七一冊
索引第四一冊	續諸宗部(二)	大谷大學	大正藏第七二~七四冊
索引第四二冊	續諸宗部(三上)	大正大學	大正藏第七四~七七冊
索引第四三冊	續諸宗部(三下)	高野山大學	大正藏第七七冊
索引第四四冊	續諸宗部(四)	高野山大學	大正藏第七八、七九冊
索引第四五冊	續諸宗部(五)	駒澤大學	大正藏第八〇~八二冊
索引第四六冊	續諸宗部(六)	大谷大學	大正藏第八三、八四冊
索引第四七冊	悉曇部	大正大學	大正藏第八四、八五冊
索引第四八冊	古逸部、疑似部	駒澤大學	大正藏第八五冊

本索引之最大特色為站在最新的研究成果，以梵文、巴利文等音譯，固有名詞為中心，盡量地附註羅馬字拼音的原文。

『大藏經索引』用途之大，吾人得由五十種分類項目窺見一斑，於此不但可見佛法大海之廣闊無邊，且能證明佛法之多面性格，其內容有人文科學、社會科學、自然科學，應有盡有。以前吾人研究佛學總有望洋興嘆，不知所措之感，現在有了這部索引，任何問題都可迎刃而解，吾人可隨意查閱自己所欲了解之事項。於此不但可查出該用語在大藏經中的所在（頁數），亦可比照各宗派對該問題之看法。不像已往想查尋一個問題往往得花費許多時間，仍無法解決問題，至於想比較研究那就更困難了。例如：有關「業」與「輪迴」之問題來說，可將原始佛教、部派佛教、大乘佛教中較代表性之經論，如：阿含經、俱舍論、成業論、中觀論等之有關「業」與「輪迴」之記載，依索引的指示抄錄出來，然後加以研究原義以及發展的過程。這豈不是輕而易舉之事。在未有索引以前吾人必須讀破整部經典，方能洞悉該問題之所在，而且仍無法收集完整的資料。

又例如吾人想知道佛教對生理衛生的看法，對國家、社會的看法，則可隨便找一本索

引，查閱有關這些問題之所在，然後找某一部經論研讀。這在以前是做夢也想不到的事，由此可知這部索引之存在價值是何等地珍貴了。

總之，研究佛學『法寶總目錄』與『大藏經索引』為學者不可缺的重要工具書。

收 録 典 籍 解 題

本巻は、大正新脩大藏經第六十八卷續論疏部六・第六十九卷讀論疏部七・第七十卷續論疏部八に収録されている次に掲げる諸典籍の索引である。

〔収録典籍〕

經典番號	典籍名・卷數	撰者名
(第68卷)		
No. 2270	因明論疏明燈抄 (12卷)	日本 善 珠 撰
No. 2271	因明大疏抄 (41卷)	日本 藏 俊 撰
(第69卷)		
No. 2272	因明大疏融貫鈔 (9 卷)	日本 基 辨 撰
No. 2273	因明大疏 善 (3 卷)	日本 明 詮 撰
No. 2274	因明大疏裏書 (6 卷)	日本 明 詮 著
No. 2275	因明四種相違私記 (3 卷)	日本 觀 理 記
No. 2276	因明論疏四相違略註釋 (3 卷)	日本 源 信 撰
No. 2277	因明四種相違私記 (2 卷)	日本 眞 興 集
No. 2278	四種相違斷略記 (1 卷)	日本 眞 興 集
No. 2279	因明纂要略記 (1 卷)	日本 眞 興 集
No. 2280	因明大疏四種相違抄 (1 卷)	日本 珍 海 記
No. 2281	明本抄 (13卷)	日本 貞 慶 撰
No. 2282	明要抄 (5 卷)	日本 貞 慶 撰
No. 2283	起信論抄出 (2 卷)	日本 尊 辨 撰
No. 2284	釋摩訶衍論指事 (2 卷)	日本 空 海 撰
No. 2285	釋摩訶衍論指事 (1 卷)	日本 覺 鑊 撰
No. 2286	釋摩訶衍論決疑破難會釋抄 (1 卷)	日本 濟 暹 撰
No. 2287	釋摩訶衍論立義分略釋 (1 卷)	日本 濟 暹 撰

No. 2288	釋摩訶衍論應教鈔（1卷）	日本	道 範	記
No. 2289	釋摩訶衍論私記（1卷）	日本	信 堅	記
No. 2290	釋摩訶衍論勘注（24卷） （第70卷）	日本	頼 寶	撰
No. 2291	金剛頂瑜伽中發阿耨多羅三藐三菩提心論祕釋（1卷）	日本	覺 饒	撰
No. 2292	金剛頂發菩提心論私抄（4卷）	日本	濟 暹	撰
No. 2293	金剛頂宗菩提心論口決（1卷）	日本	榮 西	記
No. 2294	菩提心論見聞（4卷）			
No. 2295	菩提心論異本（1卷）	日本	尊 通	撰
	附 菩提心論愚疑（1卷）	日本	安 超	記

（1）因明論疏註釋類

No. 2270 因明論疏明燈抄 12卷 善珠撰

本書は法相宗の初祖慈恩大師窺基が撰した『因明入正理論疏』三卷に對する註釋書であり、著者善珠（723－797）は秋篠寺に住したため、のちに秋篠の善珠と呼ばれた。また、法相宗の第四傳で興福寺に慈恩唯識を傳えた玄昉に師事し、唯識や因明を修得した。二十數部の著書が知られるが、完全な状態で全體が現存し、しかも大部のものとしてはこの『因明論疏明燈抄』に限られる。

さて、インドの因明が玄奘によって中國に紹介されると、呂才・文軌・文備・神泰・淨眼・玄範・璧法師・玄應・元曉・靈雋・靖邁・明覺・圓測・普光・勝莊・定賓・憬興・窺基等が註釋書を撰した。とくに玄奘は、インドの因明書として陳那の『因明正理門論』と天主の『因明入正理論』のみを譯出したため、彼等の註釋書類はこの二書に對するものに限られた。なかでも、玄奘の一秀の入室といわれる慈恩大師窺基によって撰せられた『因明入正理論疏』（以下『因明大疏』と略稱する）は、のちに法相宗のみならず廣く因明解釋の根本論典とされた。『因明大疏』に對しては、中國では慈恩門下の慧沼が『因明義斷』と『因明入正理論義纂要』等を書き、さらにその門下である智周は『因明入正理論疏前記』及び同『後記』を作り、それぞれ慈恩の説に對する異説を破斥したり、あるいは難解な箇所註釋を加え慈恩の説を繼承しようとした。これらの註釋書が玄昉等によって我國に傳

來されると、法相宗を中心とする南都の學僧達もまた慈恩の『因明大疏』に對し競って註釋を書いた。すなわち、孝仁・平備・護命・明詮・守寵などが代表とされ、同様に善珠もまた『因明大疏』の註釋書を撰したわけである。ここで扱う『因明論疏明燈抄』がそれで、『因明大疏』の註釋書としては中國・日本をとわずそれまでの最大の分量となった。論述の方法はあくまで文に随った逐次解釋で、現在散逸して傳わらない慧沼の『因明入正理論略纂』・定賓の『因明正理門論疏』等、多くの資料が引かれている。

本書の卷末に、「天應の年に天主の洪論（因明入正理論）を披り大疏を抄本となして勒して六卷となす」という記事がみられる。天應は一年のみで延暦に變わるため西暦781年となり、善珠五十九歳の時の著作ということになる。『明燈抄』の『因明大疏』に對する註釋は實に精緻で、慈恩の解釋に反する説を悉く批判している。とくに批判の對象となっているのは、定賓・文軌であり、なかには法相宗第三祖である智周の『因明入正理論疏前記』に對しても批判を加えている箇所もみられる。その反面、圓測の説を取り入れるなど唯識に對する註釋の態度とはずいぶん異なるようである。ここに因内二明に一線を畫している點が指摘できるのである。

No. 2271 因明大疏抄 41卷 藏俊撰

本書は、「仁平二年（1152）四月六日夜戌の刻に抄し了る」と記す奥書から、藏俊四十九歳の撰述であることがわかり、さらに「去年正月一日より春日御社に於いて始めて疏の上巻を讀む」とあるので、わずか一年三か月で撰述されたことになる。藏俊（1104－1180）にはこのほか因明關係の著作として『因明大疏抄』撰述の三年後から二箇年を費やして書き上げたといわれる『因明相違要文（因明廣文集）』三十八卷があり、さらに左大臣頼長の命によって作成した『唯識比量抄』二卷・『有法差別相違因略抄』一卷や『唯量抄』及び『勝軍比量抄』等が現存している。

この『因明大疏抄』は『因明大疏』の隨文解釋ではなく、むしろ『因明大疏』に散説される重要な問題を取り上げ、それに對する諸々の註釋書を引用し、様々な解釋を列擧するという方法で展開されている。ちなみに、古來から作者不明とされていた『成唯識論本文抄』の撰者についても、この『因明大疏抄』と形式が類似するという理由で藏俊とみなされるようになったわけである。

さて、四十一巻の内容は、『因明大疏』の全般にわたる重要問題が取り上げられ検討されているけれども、とくに四種相違の解釋について『因明大疏抄』の本文全體の四割以上の

紙面を費やしている點に大きな特徴がある。慈恩の『因明大疏』の四種相違段は全體の割強であることから察して、いかに四種相違段の解釋に重點をおいていたかがわかる。また、古來の註釋書を列舉しているが、藏俊自身の解釋はあまり表面に出さず、取舍の判斷を讀者側にゆだねている。ただし、所引の論疏は現在散逸したものが多く、また藏俊は原文のまま引用し、しかも引用の末尾に「云々」あるいは「文」を付しているので、引用文が明確にわかり、その意味からみても先の『因明論疏明燈抄』に勝るとも劣らない價值を有する。最も多く引用しているものは『明燈抄』であり、次いで、

『略纂』（慧沼撰『因明入正理論略纂』 4 卷）

『邑記』（道邑撰『因明入正理論疏』 3 卷）

『定賓疏』（定賓撰『因明理門論疏』 6 卷）

『文軌疏』（文軌撰『因明入正理論疏』 3 卷）

『孝仁記』（孝仁撰『因明入正理論疏記』 3 卷）

『義骨』（願曉撰『因明義骨』 3 卷）

『義心』（道獻撰『因明入正理論義心』 1 卷）

『注抄』（清幹撰『因明入正理論疏』 2 卷）

『因明要義抄』（撰者不明）

等である。とくに上記『明燈抄』以外は散逸文獻として研究者には貴重な資料となっている。

No. 2272 因明大疏融貫鈔 9 卷 基辨撰

本書は慈恩大師の『因明大疏』の註釋書であり、その形式は『因明論疏明燈抄』と同様、隨文解釋をもって當時の因明學の規範を述べている。残念なことに本書は『因明大疏』を最後まで註釋するには至らず、因の三相の解釋で終えている。

基辨（1718－1791）はこの書の他に『三十三過本作法纂解西室記』三卷を著し、さらに口傳的な要素の強い『因明有法自相四箇祕事』が現存する。またかれの『大乘法苑義林章師子吼鈔』二十二卷は當時の南都を代表する唯識學の書物であるといわれている。

本書の第一卷末に「寶曆五年（1755）より安永三年（1774）に至る凡そ二十箇年の間、平安城に於いて斯の疏（因明大疏）を講演すること六箇度。今年も復た興福寺菩提院內妙光院に於いて斯の講筵を開く。先年より講ずるごとに先徳の所説を採集して但し講演の資となす。今年は更に講讀に隨って繁約を刪補して一冊子を成じ、題して總攝要義鈔という」

とあり、さらに「天明四年（1784）九月二十日復た興福寺正智院に於いて一寺の學衆の爲に斯の疏の講演を開く。その講の暇に先に採集する所の總攝要義鈔を訂閱して題を改め、今、智解融貫鈔という」とある。この奥書には基辨六十七歳とあり、さらに續けて寛政改元の年（1789）に五回目の校正を終えた、とある。第七卷の奥書には寛政二年（1790）の書寫とあるから基辨七十三歳にあたり、入寂の前年になる。ただし第八卷・第九卷には奥書が記されていないので、入寂直前のいつごろまで執筆していたかはわからないが、本書は彼の最晩年の著作であろうと思われる。

本書制作の由來は、先にも述べたように法相宗における慈恩因明學の規範を述べることにあるが、注意しなければならないことは、當時學問研究が次第に自由になり各宗派が競って唯識・因明等の研究に着手し始めた頃にあたることである。すなわち、淨土宗・眞言宗・淨土眞宗等の學僧による因明研究がまさに開花せんとする時期であった。そこで基辨は善珠の『因明論疏明燈抄』と明詮の『因明大疏導』・『因明大疏裏書』とを中心に批判を加えつつ、法相宗の立場を明確にしようとしたわけである。ただし、基辨自身の見解を明確にするため「基辨云」・「已上私」・「基辨私解」・「基辨考註」などといって自説を記している點は從來の因明解釋とは多少異にするものがあり、當時の學問的風潮を見ることができる。

No. 2273 因明大疏導 3卷 明詮撰

No. 2274 因明大疏裏書 6卷 明詮撰

この二書は共に明詮の撰になるもので、慈恩大師の『因明大疏』の註釋書として後世因明學の指南とされた。明詮（789－868）には『東域傳燈目錄』によると『因明四種相違記』二卷が存したことが示され、『成唯識論本文抄』卷三十八には「樞要明詮記第一」とあるから、『成唯識論樞要』に對する註釋書數卷本をも撰していたことがわかる。ただし、彼の最大の業績は『成唯識論』の『導註』と『裏書』を著したことで、これらの二書は眞興によって模寫され、現在の訓點になっている。

ここで取り上げた『因明大疏導』と『因明大疏裏書』もまた『成唯識論』の『導註』と『裏書』に相當するものであることは明らかである。ただし、『因明大疏導』についていえば、一字一句註釋していくなれば何故に『因明大疏』の全文に註を付さなかったのかという疑問も起り、『因明大疏導』で言いきれなかった點を『因明大疏裏書』にゆづっているのかといえそうでもない。このあたりに『成唯識論』の『導註』と『裏書』とに對するのと多少異にするものがある。眞興が慈恩の『因明大疏』に自らの註釋を必要とした理由

もわかろう。しかし、後に基辨がこの『因明大疏善』と『因明大疏裏書』を正所依として『因明大疏融貫鈔』を著していることから、興福寺を中心とする南都において指南書とされ重んじられていたことがわかる。

No. 2275 因明四種相違私記 3巻 觀理記

本書は慈恩大師窺基の『因明大疏』の四種相違段に對する註釋書である。當時は法相宗の學者のみならず華嚴・三論・天台等の學僧もまた因明に通じることが要求されていた。このような中で三論宗の觀理（894－974）の著した本書が現存しているわけで、このことは當時の因明研究を知る上で貴重な資料となる。因明が日本に傳來した当初は『因明大疏』全體にわたる註釋書が撰述されるのが一般的であつたようである。しかし、善珠の後、次第に問題點が個別的に扱われるようになり、とくにこの四種相違段のみに對する註釋書が現れ、現存するものとしては大正新脩大藏經に入藏された觀理・源信・眞興・珍海の他に、仲算の『因明四種相違私記』五卷、良算の『因明四種相違略文集』、藏俊の『因明四種相違要文』等がある。

ここでいう四種相違とは似因十四過のうちの四不成と六不定に對して立てられたもので、法自相相違因・法差別相違因・有法自相相違因・有法差別相違因をいう。したがって四種相違の個別的な研究としての『相違因』・『法自相』・『有法自相』等の聞書類は、南都諸寺院の藏書目錄に數多く見ることができるのである。

さて、觀理は三論宗の學僧で應和の宗論では南都側として『無量義經』を講じたことでよく知られている。因明・唯識に通じ、のち珍海へと繼承される東大寺系の因明の中心人物のひとりともいえる人である。さらに藏俊の『因明大疏抄』に觀理のものとして「因明別傳云」とあり、貞慶の『明本抄』にも「觀理僧都別傳云」とあるところから、他にも因明の書が存したと思われる。東大寺は元來華嚴・三論のみならず唯識・因明がさかんで、漸安・長載・道雄・延敝や東南院を建てた聖寶らがおり、觀理はこの聖寶の孫弟子にあたる。

彼の『因明大疏』解釋のなかで特筆すべき點の一つに、相違因の解釋がある。彼は「相違即因」の持業釋をとると珍海によって記されている。この解釋は中國では文軌にみられ、我國では明詮の『因明大疏裏書』によると道詮がとるとされている。慈恩の正系は依主釋をとるため、法相宗の解釋とは若干視點を異にしているといえよう。